

打て! 走れ! みんなが燃えた!

第12回 中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会

2015年11月14日(土)・15日(日)・29日(日)の3日間、

第12回中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会「決勝大会」を開催しました。初日は雨天でしたが他の2日は晴天となり、中国5県の607チームの中から予選を勝ち抜いた8チームがマツダZoom-Zoomスタジアム広島をメイン会場に熱戦を繰り広げました。

中国ろうきん杯学童軟式野球選手権大会とは?

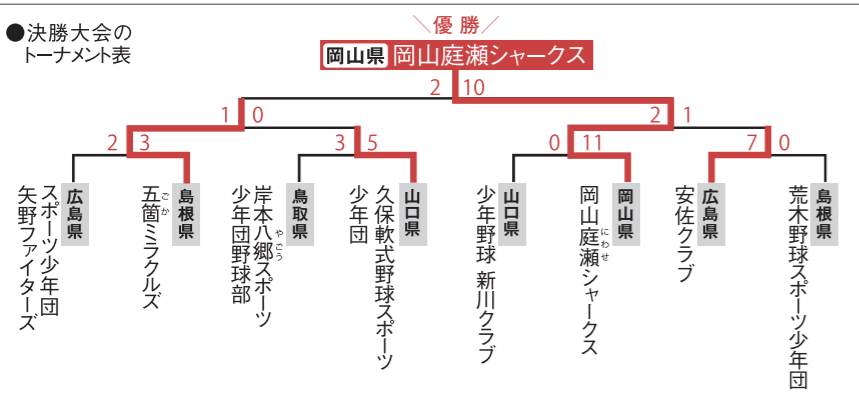
「毎日ひたむきにがんばる子どもたちの夢を応援したい」という思いから、(中国ろうきん)の社会貢献活動の一環として2004年から開催。中国地区軟式野球連盟と(中国ろうきん)の共催により、2015年で第12回目を迎えました。



【参加チーム数・選手数】

	2014年度		2015年度	
	チーム	選手	チーム	選手
鳥取県	100	2,000	91	1,820
島根県	107	2,140	104	2,080
岡山県	135	2,700	129	2,580
広島県	158	3,160	152	3,040
山口県	129	2,580	131	2,620
合計	629	12,580	607	12,140

●決勝大会のトーナメント表



練習の成果を発揮!

力強い投球に爽快なホームラン、盗塁や滑り込みと目が離せない試合展開。各チームの選手たちが予選を勝ち進んできた実力を見せてくれました。



“ここ一番”のタイミングで快打を放った安佐クラブのバッター。

チームで一つのことに取り組む野球を通じて成長してほしい

初日の14日は雨が心配されるなか、マツダZoom-Zoomスタジアム広島で決勝大会が幕を開けました。開会式では、本大会を支える方々から励ましの言葉をもらった後、久保軟式野球スポーツ少年団の主将が元気に選手宣誓を務めました。続く初戦は豪雨で中止となりましたが、翌15日には晴れ間がのぞき、マツダスタジアムなどで準々決勝の全4試合を実施。憧れのプロ野球と同じ球場で、白熱の試合が展開されました。



中国ろうきん杯大崎副理事長より、開会のあいさつ。



「選手たちが頑張れるよう声を届けよう!」と熱が入る各チームの応援団。「ここで力を発揮して!」と選手たちの普段の頑張りを知る家族たちは、心の中では祈るような思いで、選手たちにエールを届けます。

晴天の下、実力伯仲の準決勝・決勝戦

初戦から2週間後の29日(日)、好天に恵まれた庄原さくら球場で準決勝と決勝の3試合が行われました。数々の試合を勝ち抜いてきた4チームだけに、準決勝は実力が伯仲。2戦とも1点が勝敗を分けた接戦でした。決勝戦は、各チーム鳴り物入りの応援のなか、チーム全員で戦う総力戦となりました。最後は、審判の試合終了の合図で優勝チームが決まり、選手たちは力を出し切った充実感に包まれて表彰式に臨みました。



▲善戦しながら惜しくも敗れた悔しさは、心に刻まれ、次への闘志になります。

▼緊張の一戦を勝ち抜いた安堵と嬉しさ。チームが一つになる瞬間です。



優勝 岡山庭瀬シャークス

主将 岡山庭瀬シャークス

多得点を実現した打線に、投手と守備の連携プレーと、練習の成果を発揮できた岡山県代表の岡山庭瀬シャークス。厚い選手層を生かして、優勝した力をぜひ来期につなげてください。

惜しくも準優勝、五箇ミラクルズ

準決勝の“ミラクル”な得点で決勝戦に進むも、惜しくも準優勝となった島根県代表、隠岐から参加のミラクルズ。最後まであきらめなかった選手たちの頑張りが印象に残りました。

▲卒業生たちが必勝祈願に作ってくれた千羽鶴と共に戦いました。



岡山庭瀬シャークスのピッチャーが見せた、小学生とは思えない球威を感じさせる投球。